

令和3年度

# 「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立豊新小学校

令和4年2月

## 大阪市立豊新小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況									
<div>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</div> <div>全市共通目標</div> <div>○令和３年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95％以上にする。</div> <div>○令和３年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 90％以上（H29:93％ H30:90％ R1:93％ R2：93％）にする。</div> <div>○令和３年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度と同じく 0 にする。</div> <div>○令和３年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</div>	<table><tr><td>A</td><td>0</td><td rowspan="4">B</td></tr><tr><td>B</td><td>13</td></tr><tr><td>C</td><td>0</td></tr><tr><td>D</td><td>0</td></tr></table>	A	0	B	B	13	C	0	D	0
A	0	B								
B	13									
C	0									
D	0									

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況		
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 いじめのアンケート調査を定期的に（学期に1度）実施し、当該児童からの聞き取りをていねいに行い、校内いじめ対策委員会において事案を解消していく。		A	1	C
		B	11	
		C	4	
		D	0	
指標 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。				
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 社会や集団生活でのルールを守ることについて日常的に全教職員で指導する。		A	7	B
		B	9	
		C	0	
		D	0	
指標 令和2年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上（H29:93% H30:90% R1:93% R2:93%）にする。 令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。				
取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 区役所（子育て支援室）やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図るとともに、校内ケース会議で情報共有し、個別支援を行う。		A	2	C
		B	9	
		C	3	
		D	0	
指標 令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童を出さない。				
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析				
① 校内いじめアンケートの結果から児童への丁寧な聞き取り、児童に寄り添った指導を行ってきた。校内いじめ対策委員会でも学期ごとに報告・話し合いを行ってきた。日々の継続的な指導により、いじめが解消した割合は93%である。				
② 生活指導部会で話し合いを行い、教職員で児童の生活の様子について、共通理解を図り、児童朝会での呼びかけ等により繰り返し指導をおこなってきた。校外学習や社会見学等の学習においても学年で事前指導を行い、電車の乗り方や公共の場での歩行の仕方等、校外においてもルールを守ることの大切さを学ぶ機会を適宜、指導してきた。結果経年テストでの児童アンケートにおいては、95%の児童が「学校のきまり・規則を守っている」と肯定的に答えている。				

- ③ 今年度の不登校児童数は前年度に比べて増加している。コロナ禍での不安等の理由も含めると登校しづらい児童が前年度よりも増えている。生活習慣を守るために、各学級、各学年において、家庭との連携を行っている。家庭学習ができる教材を届けたり、オンライン活用をした学習を行ったりしながら学校とのつながりを持ち続けられる指導・支援を行っている。また、スクールカウンセラーや、ソーシャルワーカー等の関係機関とも定期的に情報の共有を行い、対応を行ってきた。

次年度への改善点

- ① 継続して未解消の件となっている事案について、今後も児童に寄り添った指導を継続し、解消へ向けてと努める。
- ② 来年度以降も継続して行っていく。特に携帯電話の使い方においては保護者も参加できる形での取り組みが必要になってくる。保護者の意識への啓発も来年度に向けての課題である。児童の実態においては、ルールを守れているとはいえない項目もあることから、生活指導部で密に連携を図り、繰り返し指導していく。
- ③ 遅刻が続く児童や、登校しづらい児童に対して来年度に向け、報告や情報共有にとどまらず、学校・地域・家庭においての具体的な手立ての実施や考察が必要である。

年度目標	達成状況		
<b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b> <b>学校の年度目標</b> ○心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事（演劇・音楽鑑賞・古典伝統芸能）ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施する。 ○令和３年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上（H29:83% H30:85% R1:83% R2：84%）にする。	A	0	B
	B	8	
	C	7	
	D	1	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況		
取組内容①【施策２ 道徳心・社会性の育成】 芸術鑑賞行事ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施し、心豊かな子どもの育成を図る。	A	0	C
	B	10	
	C	7	
	D	1	
指標 年間行事計画に基づき、芸術鑑賞行事、３～６年生で社会見学を実施する。			
取組内容②【施策２ 道徳心・社会性の育成】 キャリアパスポートに基づき、体験活動等で得た達成感や充実感を振り返り、自尊感情の育成を図る。	A	2	B
	B	10	
	C	5	
	D	1	
指標 令和３年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を85%以上（H29:83% H30:85% R1:83% R2：84%）にする。			

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① コロナ禍の為、校外での体験については、年度当初の計画を、実施できない活動が多くなった。そのため出前授業や、オンラインを活用した企業見学や芸術鑑賞、外国の学校との交流や海外在住の方との交流学习等を取り入れ、児童の心豊かな育成のために多様な体験活動を実施してきた。
② 校内調査の「友達にはよいところがある」の項目においては９９％の児童が肯定的に答えており、多くが友だちのよいところをを認めることができている。しかしながら「自分によいところがある」の項目においては８４％の児童が肯定的に答えている。自尊感情を高めるためにキャリアパスポートを活用し、自分の成果や課題を振り返った。
次年度への改善点
① 引き続きコロナ禍での学習が継続されることを考慮し、児童の豊かな心の育成のための体験的な学習とオンライン等を活用した学習との併用をするために、年間指導計画を作成する。
② 児童の実態に応じた指導・支援を、学校・地域・家庭と連携しながら取り組んでいく。

年度目標	達成状況		
<b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b> <b>学校の年度目標</b> ○令和３年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を８４％以上（H29:86％ H30:83％ R1:88％ R2：84％）にする。	A	7	B
	B	8	
	C	1	
	D	0	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況		
取組内容①【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 学級文庫の充実ならびに地域の方の読み聞かせ活動の活性化を図り、児童がより読書に親しめる機会を増やす。		A	7	B
		B	8	
		C	1	
		D	0	
指標 令和3年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を84%以上（H29:86% H30:83% R1:88% R2:84%）にする。				
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析				
① コロナ禍のため、上半期は、図書館開放や図書ボランティアによる読み聞かせ等は、制限がかかったり実施できなかったりしたこともあったが、学級文庫の充実を図り、児童が読書に親しめる環境づくり進めた。図書補助員による整理や修繕作業を随時行い、利用しやすい図書館が保たれている。図書委員会を中心に読書月間や読み聞かせを行い、本に興味・関心が持てる機会を増やした。結果、本に親しみ進んで読むことへの意識は高まり、令和3年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、目標の86%を達成することができた。（86%）				
次年度への改善点				
① 次年度も児童が興味・関心のある本を購入する等して、学級図書の充実を図り、読書活動の活性化を推進していく。また、東淀川図書館や学校図書館を利用した学級貸し出しを積極的に行い、児童がより読書に親しむ機会を増やしていく。図書委員会を中心に読書月間の計画や読み聞かせ等を計画的に実施していく。適宜児童が興味を持てる本や資料、言葉等を紹介し、読むことに対して親しみを持てるように指導・支援していく。				

年度目標	達成状況									
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○令和 3 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○令和 3 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。</p> <p>○令和 3 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。</p> <p>○令和 3 年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加（H29:75.9% H30:72.7% R1:73.3% R2 : 66.5%）させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○令和 3 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上（H29:91% H30:94% R1:91% R2 : 93%）にする。</p>	<table><tr><td>A</td><td>0</td><td rowspan="4">—</td></tr><tr><td>B</td><td>7</td></tr><tr><td>C</td><td>1</td></tr><tr><td>D</td><td>0</td></tr></table>	A	0	—	B	7	C	1	D	0
A	0	—								
B	7									
C	1									
D	0									

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況										
<b>取組内容①【施策 5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</b> 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、習熟度別少人数学習、放課後学習や家庭学習支援などを行う。		<table><tr><td>A</td><td>1</td><td rowspan="4">—</td></tr><tr><td>B</td><td>3</td></tr><tr><td>C</td><td>2</td></tr><tr><td>D</td><td>0</td></tr></table>		A	1	—	B	3	C	2	D	0
A	1			—								
B	3											
C	2											
D	0											
<b>指標</b> 令和 3 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 令和 3 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。 令和 3 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。												
<b>取組内容②【施策 5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</b> 単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築し、多くの場で伝え合う場ができるように工夫する。		<table><tr><td>A</td><td>4</td><td rowspan="4">—</td></tr><tr><td>B</td><td>9</td></tr><tr><td>C</td><td>1</td></tr><tr><td>D</td><td>0</td></tr></table>		A	4	—	B	9	C	1	D	0
A	4			—								
B	9											
C	1											
D	0											
<b>指標</b> 令和 3 年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加（H29:75.9% H30:72.7% R1:73.3% R2：66.5%）させる。												
<b>取組内容③【施策 5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</b> 実施計画に基づいて、計画的に研究授業および研修会を実施する。		<table><tr><td>A</td><td>8</td><td rowspan="4">A</td></tr><tr><td>B</td><td>9</td></tr><tr><td>C</td><td>1</td></tr><tr><td>D</td><td>0</td></tr></table>		A	8	A	B	9	C	1	D	0
A	8			A								
B	9											
C	1											
D	0											
<b>指標</b> 令和 3 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上（H29:91% H30:94% R1:91% R2：93%）にする。 全教員が一人 1 回以上の研究授業を行うとともに、学習指導に関する全体研修会を 8 回以上行う。												

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 一人ひとりの状況に応じた学力向上を目指し、指導法の工夫を行っている。今後も基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図れるようにしていく。進捗状況については、令和3年度の小学校学力経年調査結果が出た後評価する。</p> <p>② コロナ禍ではあるが、フェイスシールドを着用する等、感染対策に留意しながら、単元や題材に即した、ペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築してきた。多くの場面で話し合いの場が設定できるように指導法を工夫している。進捗状況については、令和3年度の小学校学力経年調査結果が出た後評価する。</p> <p>③ 令和3年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合は95%で目標(90%)を上回っている。今後も研究主題に沿った研究授業・研修会を計画し行っていき児童への指導につなげていく。</p>
次年度への改善点
<p>小学校学力経年調査結果から課題を見つける。どのような学力を児童につけさせ、どのようにして能力を発揮させることができるか、課題をもとに今後も継続して取り組みを進める。そのために、</p> <p>① 児童一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組みとして、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、家庭学習支援等を引き続き行う。また書く力の育成から、視写活動を継続して取り組む。</p> <p>② コロナ禍でも、単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築する。児童が主体的に取り組み、対話から問題解決ができるように指導していく。</p> <p>③ 引き続き研究授業および研修会を実施する。次年度の年間計画・方針・研究の柱を明確にして共通理解をもって研究を深める。</p>

年度目標		達成状況	
<b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b>			
<b>学校の年度目標</b>			
○令和３年度の校内調査における「ＩＣＴを活用した学習はわかりやすい」(H29:95%　H30:95% R1：93%　R2：95%)、「外国語活動は楽しい」(H29:87%　H30:94%　R1:92%　R2：89%) の項目において、肯定的に答える児童の割合をともに90%以上にする。			
A	7	A	
B	9		
C	0		
D	0		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況	
取組内容①【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 ICTの効果的な活用方法について指導方法（プログラミング学習等）の研究を行い、授業実践を蓄積させていく。	A	7	A
	B	9	
	C	1	
	D	0	
指標 令和3年度の校内調査における「ICTを活用した学習はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える児童の割合を90%以上（H29:95% H30:94% R1:96% R2:95%）にする。			
取組内容②【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 外国語活動・英語教育の深化充実、モジュール学習の定着を図るため、教員研修を充実させる。	A	7	A
	B	10	
	C	0	
	D	0	
指標 令和3年度の校内調査における「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合を90%以上（H29:87% H30:94% R1:92% R2:89%）にする。			
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析			
① デジタル教材やタブレット等を活用して、学年に応じた実践を行った。コロナ禍のために登校できない児童に対しては、Chrome book を活用した、双方向学習で学びの保障をしている。ICT 機器を活用して、視覚的に捉えることで、内容を把握しやすく学習意欲が高まってきており、令和3年度の校内調査における「ICTを活用した学習はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える児童の割合は96%で、目標（90%）を上回った。しかしながら、学習指導や机間巡視に加え、機器の操作等、指導者が一人の状況で、実施する内容が多岐にわたる。			
② モジュール学習を積極的に取り組み、外国語に触れる活動を増やしている。インターネットを活用し、海外（オーストラリア・台湾・メキシコ・アメリカ・イギリス）との交流も図る等して、外国語に対して、興味・関心を持てた児童が多かった。このことから、令和3年度の校内調査における「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合は95%で、目標（90%）を上回った。			
次年度への改善点			
① ICTの効果的な活用について指導法の研鑽を深め、授業実践を蓄積させる。今後も登校できない児童に対して、学びの保障をするために双方向学習に取り組んでいく。令和3年度は「国語」、「算数」を基本とした双方向学習に取り組んできたが、次年度は、学校全体で双方向学習に取り組む教科の共通理解を図り実施していく。			
② C-NET の授業を参考にしたり研修会を実施したりする等して、外国語活動・英語教育の指導法を共有し、児童の興味・関心を高めていく。			



年度目標	達成状況									
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○令和 3 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、前年度よりそれぞれ 2 ポイント（回）、2 ポイント（回）、2 ポイント（cm）向上させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○令和 3 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を 5・6 年生対象に、前年度より 2 ポイント向上（令和 2 年度結果 5 年生 男子…45 ポイント 女子…45 ポイント 6 年生 男子…56 ポイント 女子…51 ポイント）させる。</p>	<table><tr><td>A</td><td>1</td><td rowspan="4">B</td></tr><tr><td>B</td><td>5</td></tr><tr><td>C</td><td>0</td></tr><tr><td>D</td><td>0</td></tr></table>	A	1	B	B	5	C	0	D	0
A	1	B								
B	5									
C	0									
D	0									

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況		
取組内容①【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 体育の授業において、跳躍力や持久力、敏捷性のアップを目指す取組をする。		A	1	B
指標 令和 3 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、5・6 年生を対象に前年度よりそれぞれ 2 ポイント（回）、2 ポイント（回）、2 ポイント（cm）向上させる。		B	4	
		C	0	
		D	0	
取組内容②【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 運動やスポーツに興味・関心が高まり、楽しみながら体を動かすことのできる取り組みを工夫する。		A	8	A
指標 令和 3 年度の校内調査における「運動することが好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上にする。		B	9	
		C	0	
		D	0	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析				
<p>① 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、5・6 年生を対象に前年度と比較すると、どの項目においても 10 ポイントほど向上していた。指標では目標を達成しているが、大幅なポイントの向上は体の成長に伴うものと考えられる。5 年生を対象に大阪市平均の記録と比較すると、シャトルランと立ち幅跳びでは男女とも平均を下回っていた。しかしながら、各学年の体育の学習で持久走を取り入れたり、コロナ禍で中止となった「かけあし週間」の代替として全学年で縄跳びの持久跳びに取り組んだりすることで、児童の体力の保持増進につながっている。一方で、反復横跳びでは大阪市平均を 2 ポイントほど上回っていた。「なわとび週間」やリズム縄跳び検定など、一年を通して縄跳びを用いた運動に取り組んだ成果でもあり、今後も活動を続けていく必要がある。</p> <p>② 校内調査における「運動することが好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合が 91 % であり、指標の目標値を大きく上回っている。コロナ禍で制限が多く自由に遊べない状況が続いた時期もあったが、感染対策を徹底しながらボール運動や遊具遊びを続けることができ、進んで体を動かそうとする児童の姿が多く見られた。また、体育の学習で、密にならないよう工夫して用具を使った運動に取り組んだり、児童同士の接触を避けることができるようにルールを変えてボールゲームをしたりと、それぞれの学年が学習内容を工夫していた。制限がある中でも、児童は楽しく活発に運動することができていた。</p>				
次年度への改善点				
<p>① 体育の学習に限らず、日頃の運動が俊敏性や跳躍力の向上につながるよう、休み時間の用具や遊び方の工夫を行うようにする。また、児童の体力維持のため、運動量を十分に確保した指導計画の設定を行うようにする。一方、全国体力・運動能力、運動習慣等調査での前年度との比較においての大幅なポイントの向上は、体の成長に伴うものと考えられるため、指標の見直しをする必要がある。</p>				

- ② スポーツ週間の内容を縄跳びや持久走に限らず工夫し、他学年が交流しながら楽しく運動できるようにする。コロナ禍でも感染対策を行いながら、ボール運動や用具を使った活動を継続し、児童が意欲的に体を動かそうとする場を作っていく。